

巻 頭 言

九州地区大学体育連合会長 藤 井 雅 人

今年度の我が国のスポーツ界で最も記憶に残る出来事の1つとして、東京オリンピック・パラリンピックの開催が挙げられるでしょう。個人的には、そこでの熱い戦いよりも、コロナ禍での開催の是非をめぐる国民的な議論を忘れがたく感じています。おそらく今回のオリパラほど、一般大衆がスポーツを取り巻く経済や政治といった外部環境について知り、スポーツの存在価値を考えたことはなかったのではないのでしょうか。学校体育の中でもこうしたテーマで学び、考える機会を得ることはなかなか困難です。特に大学体育授業では、他科目との差異において、身体運動、それによる直接的なコミュニケーションや健康の保持増進といった特性が重視される傾向にあるため、社会的視点からスポーツを学ぶ機会は等閑視されることとなります。1991年の大学設置基準の大綱化以降、大学体育授業が、大学内の他科目との関係性を意識した生き残り戦略を取りがちだったことで、大学外の社会におけるスポーツへの関心がそこでの学習内容に反映されにくくなったようにも思われます。しかし、我が国において、「第2期スポーツ基本計画」（文部科学省：2017年）が謳う、国民の「する」「みる」「ささえる」といったスポーツ参画を通じた「一億総スポーツ社会」の実現が目指されるのであれば、大学体育授業もまた、大学内部への視点にとどまらず、その外部にある社会のスポーツへと目を向けた学びを提供する必要があるといえます。

ドイツのスポーツ教育学者 Schierz は、学校スポーツ（ドイツでの教科名は「体育」でなく「スポーツ」）と学外スポーツとで生じうる関係性を4つのメタファーを用いて説明しています。彼は、学校スポーツが学外スポーツの「独立世界」「対立世界」「複写世界」「共同世界」として解釈できるといいます。ただし、実際には学校体育・スポーツが学外スポーツから完全に独立し無関係になることも、例えばドーピングの問題に際ししばしば社会的批判を受けることにもなるスポーツの競技性のような特性と完全に対立した学校体育・スポーツになることも、学外スポーツのあり方が学校体育・スポーツにそのまま移譲・複写されることもあり得ませんし、そもそもそれらは教育学的に機能しないでしょう。Schierz 自身は、学外の地域スポーツクラブ、自治体行政、地域メディアなどと共同する学校スポーツの実践的学びを推奨しています。この4つの関係性のメタファーを手掛かりに今後の我が国の大学体育授業と大学外の社会におけるスポーツとの関係性について考えてみますと、既に示唆してきたように、共同的な方向性をより意識する必要があると思いますが、現実的には全てのメタファーの要素を混在させざるを得ないでしょう。つまり、教育機関としての独自性を出発点としながら、時には大学外・社会におけるスポーツと対立的・批判的に対峙し、また時にはその趨勢を柔軟に取り込みつつ、より良い大学外・社会におけるスポーツの構築に寄与できることを目指すというあり方です。そこでは大学内部の他科目との差異にとどまらず、大学外・社会におけるスポーツの存在とそれとの差異をより認識しながらの授業展開が必要になってきます。そうした授業展開を身体運動が中心の大学体育授業において具現化するのには容易ではないでしょう。しかし、昨年度の本連合春期研修会において、コロナ禍での遠隔授業の実施の際に（やむを得ずという側面もあったでしょうが）スポーツを歴史的・社会的視点から取り上げている実践例が各大学より報告されていたように、コロナ禍を端緒に大学外・社会におけるスポーツの存在をより意識した大学体育授業が展開されるようにならないかと期待しているところです。

目 次

巻頭言	藤井 雅人（九州地区大学体育連合会長）	1
I. 教育研究論文		
— 提言 —		
研究ベースの九州地区大学体育連合70年を振り返る	橋本 公雄（九州大学名誉教授・元熊本学園大学）	5
— 寄稿論文 —		
これまでの大学体育とこれから	大築 立志（東京大学名誉教授）	15
— 特集「リベラルアーツにおける大学体育の意義」 —		
熊本県立大学共通教育センター開設の観点から		
	堤 裕昭（熊本県立大学副学長・共通教育センター長）	25
健康教育の観点から	田原 亮二（西南学院大学）	29
社会人基礎力の育成・向上の観点から	梶田 和宏（京都先端科学大学）	33
— 事例報告 —		
COVID-19の流行下における Google Forms を用いた遠隔学習支援		
— 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを目指す学生へのサポート事例 —		
	西山 侑汰, 国枝 結花, 名頭菌亮太, 辰見 康剛（九州共立大学）	41
II. 大学体育連合関連情報		
九州体育・スポーツ学会合同企画報告（2021年度分）		45
第9回大学体育スポーツ研究フォーラム報告		
第9回大学体育スポーツ研究フォーラムに参加して	川畑 和也（西日本短期大学）	47
III. 2020（令和2）年度体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議		
オンラインフォーラム『COVID-19影響下での大学体育授業実践』		
企画趣旨	杉山 佳生（九州大学）	49
福岡県	杉山 佳生（九州大学）	50
	古瀬裕次郎（福岡大学）	51
	阪田 俊輔（九州産業大学, 現横浜商科大学）	52
佐賀県	西田 明史（西九州大学, 現中村学園大学）	53
長崎県	熊谷 賢哉, 神野周太郎（長崎国際大学）	54
熊本県	藤塚 千秋（熊本学園大学）	55
鹿児島県	高橋 恭平（鹿児島大学）	56
大分県	中山 正剛（別府大学短期大学部）	57
宮崎県	山本 順之（九州保健福祉大学）	58
沖縄県	仲田 好邦（名桜大学）	59
九州圏外	森 正明（中央大学）	60
九州圏外	北 徹朗（武蔵野美術大学）	64
九州圏外	藤本 敏彦（東北大学）	85
IV. 体育・スポーツ関連情報		
大学めぐり	川尾 勇達（熊本高等専門学校八代キャンパス）	89

V. 事務局報告

2020（令和2）年度 事業報告	93
令和2年度 九州地区大学体育連合 決算報告	99
令和3年度 九州地区大学体育連合 補正予算	100
「体育・スポーツ教育研究」論文投稿のご案内	101
2022（令和4）年度 九州地区大学体育連合 事業計画	102
九州地区大学体育連合規約	103
2020（令和2）年度 九州地区大学体育連合 役員名簿	104
2021（令和3）年度 九州地区大学体育連合 役員名簿	105
2020（令和2）年度 九州地区大学体育連合 加盟大学および個人	106
2021（令和3）年度 九州地区大学体育連合 加盟大学および個人	107

編集後記